

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所 えいる		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年3月6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	質の高い支援が提供できる職員体制	資格保持者(保育士や社会福祉士や公認心理師等)や経験年数が長い職員(概ね5年以上の者)を配置をしている。お子様の様子・特性を踏まえた支援の提案ができるようにしている。	職員の研修制度や職場の環境を整え、長く働きやすい職場を作り、専門性の維持・向上に努めていきたい。
2	関係施設との連携	自法人に児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所、相談支援事業所があり、併用のお子様について密に連携を取ったり、支援について検討を行ったりすることができている。幾つかの訪問先施設とは、以前から訪問を重ねてきており、相談がしやすい状況がある。	同じ方向を向いて支援を進める事ができるよう、共通理解がしやすいような工夫を行っていきたい。
3	職員のスキルアップ体制	法人内で研修や勉強会を実施したり、外部の研修にも積極的に参加できるように配慮している。一人一人の職員が自己研鑽を行って専門性を高めていくようにしている。	法人内には相談支援・生活介護等の事業所もあるため、その強みを生かし、長い目で捉えて、幼児・学童の時期に必要な支援を検討できるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の取り組みの情報発信不足	事業所の教材の状況や非常時等の対応、訪問先施設の先生とのやり取りや保護者勉強会の実施など、伝達不足になっていることがある。	今年度、改善に向けて取り組んできたものの、まだ伝わりきっていない状況があるため、お便りやメール等を活用した情報発信をしていく。
2	新しい職員の育成	経験年数が長い職員が中心で訪問を行っている状況があり、次を担う職員も育てていく必要がある。	今年度、取り組みが不足していた点であるが、次年度は体制を整えて、訪問先施設にご理解をいただきながら、育成を図っていきたい。